

ほっかいどう N I E 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

2017年度NIEセミナー日程

名称	開催日	会場
根室	6/8	根室高
北見	6/23	北見市立北中
釧路	7/14	釧路市立鳥取中
北海道	8/19	北海道新聞本社
音更	8/31	音更町立緑南中
函館	9/8	函館市立亀田中
札幌	10/5	札幌市立陵北中
日高	10/16	日高町立門別中
旭川	11/10	旭川市立神居東中
登別	12/8	登別市立富岸小

地区セミナー 根室など9回

北海道NIE推進協議会が主催する2017年度NIEセミナーの日程がほぼ固まった。表1。根室セミナー(6月8日)を皮切りに、北海道セミナーと各地区セミナーとで計10回を予定している。教員のみを対象の研修会は、16年度はセミナーの位置づけだったが、17年度は別途行う計画だ。全ての地区セミナーで公開授業が行われる。

十勝地区セミナーは北海道十勝新聞教育研究会との共催。札幌地区セミナーも北海道NIE研究会との共催で、3年ぶりの開催となる。締めくくりは登別市で行う胆振地区セミナーとなる。会場校の教師や子供たち向けのスクラップ新聞体験なども、要望に応じて行う予定だ。

問い合わせは協議会事務局 ☎011-210-5802へ。

【新任】▽利尻町立杵形小学校・高橋正一教頭▽平取町立平取中学校・盛永美樹教頭(社会)▽函館市立亀田中学校・川端裕介教頭(社会)▽音更町立南中音更小学校・池田圭子教頭

【退任】▽北海道教育庁石狩教育局教育支援課・渋谷渉指導主事▽苫小牧市立日新小学校・富岡賢晃教頭▽浦幌町立上浦幌中央小学校・野上泰宏校長▽函館市立亀尾小中学校・平沼和彦

子どもたちの夢 新聞で応援



新規の実践指定校16校を代表して抱負を述べる、室蘭市立白鳥台小学校の新谷隆教頭(中央)

北海道NIE推進協議会(高辻清敏会長)は5月13日、2017年度総会を北海道新聞社特別会議室で開き、北海道セミナーの開催をはじめとする本年度の活動計画案などを承認した。NIE実践指定校37校の内定も報告した。関連記事は3面に。

「北海道セミナー」

8月に開催

総会には実践指定校の教師や加盟新聞社の代表ら約70人が出席。高辻会長が「次期学習指導要領の総則に初めて新聞が取り上げられた。非常に深い意義があり、新聞の教材としての価値がますます高まっている。社会を知る窓として多角的、多面的に活用していく年度としたい」とあいさつした。

本年度の活動計画案と予算案など全議案が承認された。

過去2回は11月開催だった北海道セミナーは、学校現場からの要望を踏まえて夏休み中の8月19日に札幌で開く。国語教育の分野で多彩な著作がある安藤修平・元富山大教授と道徳教育が専門の林康成・上越教育大副学長の講演二本立てとする。地区セミナーは教員対象のNIE研修を除き

NIE推進協議会2017年度



総会の席で紹介された4人の新任アドバイザー

アドバイザーは 4人交代し12人

日本新聞協会のNIEアドバイザーのうち3月末日曜日の4人が退任し、2017年度から新たに4人

が認定された。新任のアドバイザーは5月13日の北海道NIE推進協議会の総会で紹介され、一人ひとりが抱負を述べた。

新任と退任の各4人は次の通り。3面に関連記事。

新聞投稿の実践を報告

全国高校
NIE

森高校・山本教諭

全国高校NIE研究会の
第15回全国大会が3月25、
26の両日、東京都の明治大
学付属中野高で開かれ、



「人間と社会
を学ぶ高校N
IE」をテーマ
に新聞活用の
可能性につい
て考えた。
全国から学
校関係者約
150人が参
加した。最初

に日本記者クラブ理事長の
伊藤芳明氏が「今こそジャ
ーナリズム―国際メディア
の現状―」と題して記念講
演した。

六つの研究発表が行わ
れ、うち奈良女子大付属中
等教育学校の二田貴広、東
京都立国際高の宮崎三喜男
の2教諭が主権者教育に関
する取り組みを語った。商
業、工業高などからの発表
もあった。
道内関係では、森高の山
本かおり教諭が生徒による
新聞への投稿などの実践につ
いて話した「写真Ⅱ」新聞

は小さな町で暮らす生徒た
ちに広い世界、社会とつな
がるきっかけを与える教材
になる」と報告した。

研究大会などの 事業計画を承認

北海道NIE研究会は5
月13日、2017年度総会
を北海道新聞社で開き、事
業計画を承認した。上村尚
生会長（札幌市立星置東小
校長）ら8人が出席した。
22回目を迎える北海道N
IE研究大会は10月5日、
札幌市立陵北中で開き、公

19年度全新研大会 開催予定地に内定

北海道十勝新聞教育研究
会（会長・中村宏喜鹿追町立
鹿追中学校）の2017年
度総会が4月24日、帯広市
立柏小学校で開かれ、活動
方針などを決めた。

開授業と実践発表を行う。
北海道NIE推進協議会の
札幌セミナーと初めて共同
開催の形を取る。
年間を通じた研究主題は
「子どもの資質・能力をはぐ
くむNIE」グローバル化
する社会にどう向き合い、
どのような資質・能力を身
に付けさせるか、各種研修
会や新聞夜塾の活動を通じ
て考えていく。

研究大会は音更町立緑南
中学校で8月31日に開催
し、来年2月には実践発表会
を実施する。研究大会は北
海道NIE推進協議会との
共催で、「NIE十勝セミ
ナー」を兼ねる。
また、19年度の第62回全
国新聞教育研究大会の開催
予定地に内定した。

NIE実践奮闘記

前任の北海道追分高校
での実践ですが、NIE
の安平町セミナーに合わ
せる形で全校生徒による
壁新聞の作成に挑戦しま
した。

追分高校は各学年1学
級の全日制普通科高校
で、全校生徒100名程
度のうち①安平町内②苦
小牧方面③千歳方面とそ
の他の3地域からそれぞ
れほぼ同数の生徒が通学
しており、勉強には苦手
意識を持つ生徒も多い学
校です。

そんな生徒たちにとど
のような実践が可能なか
不安を感じていました
が、新聞を取り入れた授
業には以前から興味を抱

おといねっふ美術工芸高校教頭

藤松 慶式



いていたこともあり実践
することになりました。
打ち合わせをする中で
全校生徒による壁新聞作
成の話が出たときには、

正直なところ不安が9割
でした。しかし「完璧な結
果が必要なわけではな
く、そのプロセスや作り上
げたという達成感、そし
て次に繋がるという継続

全校で壁新聞 驚きの成果

的な学習の姿勢が大切」
というお話を頂きそれな
らばできるかもしれない
という気持ちを持つこと
ができたことが大きかつ
たように思います。
いざ始まってみると、
やはり生徒の反応は否定

的なものが多く、壁新聞
を作成した経験者も予想
以上に少ないことが判明
して前途多難です。学年
別に1年生は「追分高校
の魅力」、2年生は「安平
町を発信する」、3年生
は「十八才青春の群像」と
いうテーマを設定して、

どのような記事が書ける
かを考えます。
記事のアイデアや記
事をまとめる方法、取材
の対象や取材方法を教え
ていただくために北海道
新聞社から出前授業に來
ていただき、少しずつ自
分たちができることを発
見する生徒が現れまし
た。取材をして記事を作
成することを夏休みの宿

題に設定してその成果に
より方向性を出すことに
し、記事を提出した生徒
を各班に配置し、その他
の生徒も先入観無く分け
るためにあえて自分は班
分けに参加せず、コーデ
ィネーターにお任せする
ことにしました。

各学年8、9名の3、
4班ができましたが、で
き上がった班は当然いわ
ゆるバランスはとれては
おらず、特別支援の対象
となる生徒が同じ班に三
人入っていたり、普段は
あまり協力的な姿勢を示
さない生徒が集まってい
たり、苦手意識を持つ生
徒が同じ班に入っていた
りととても刺激的な班編
成でした。

これを見
たときに、
おもしろ
いと感ずることができた
のが後の指導に大きな影
響を与えたように感じて
います。
実際に班で動き始めて
からは驚きの連続です。
普段は人に隠れてなかなか
目立つ行動が見えなかつ
た生徒が、班の動きが

悪いのを見かねて積極的
に動いていたたり、大変だ
と思っていた支援対象の
生徒が記事作成を任され
てしつかり遂行していた
り。また、その逆もありま
した。できるだろうと思っ
ていた生徒が非協力的な
様子を見せて、自分の眼
力の無さを自覚したりし
ました。その発見が自分
にとつては今回の最大の
成果です。

生徒はセミナー参加者
や町民の方々の前でのプ
レゼンまで終えて、新し
い事への挑戦、協力して完
成させた喜びなど、予想
以上の反応を感想に残し
てくれました。この経験
を、今後は接していく教
員に様々な角度から伝授
し、より良い教育に貢献
できるように活用してい
こうと考えています。

多彩な取り組み 輝く成果

実践報告表彰 代表者があいさつ

2016年度の実践報告表彰を受けた3校は、新聞を使ったさまざまなアプローチを行い、高く評価された。総会で表彰状を受け取ったそれぞれの代表者のあいさつを紹介する。



高路東高
五十嵐猛教諭

10年後の世界記事に

実践指定校となつて昨年度3年目となった。新聞記事を活用した国語科での授業をはじめ、投稿活動、記事を読む朝読書など、生徒の言語活動充実に向けて学校全体で取り組む雰囲気づくりをすすめてきた。

昨年度は、3年の現代文の授業で、新聞記事を読み、10年後の未来を予想する記事を作る実践を行った。生徒が未来について真剣に考えて作った新聞は魅力的なものばかりだった。

未来を担う生徒にとってNIE活動が少しでも役立つことを願い、これからもライフワークとして実践を続けていきたい。



札幌・陵北中
永野亜也子教諭

特別支援の子に自信

担当する特別支援学級でNIEに取り組んだ。昨年度は新聞記事を使ったワークシートで「いつ」「どこで」「何があつた」を見つける学習をした。

自分の意見を発表するのが得意な子が記事の感想を記述するようになった。

特別支援学級では自分の気持ちをうまく伝えられない子が増えている。NIEを含めコミュニケーションを中心に取り組んでおり、子供たちが少しずつ成長していると感じる。今後も新聞と関わっていき



中標津・俵橋小
奥村雅美教諭

新聞作り自主性育つ

全校児童15人の本校は、小さいが故に児童のコミュニケーション能力や自主性の不足が課題だった。NIE活動では「3つの挑戦」として、①全校で取り組む②継続的に取り組む③全教育活動で取り組むを掲げた。

新聞クイズや新聞スクラップノート作り、新聞製作学習など、さまざまな活動を通じて新聞が身近になった。新聞作りはゴールがはっきりしているの、子供たちには、自主的に取り組む態度が身についた。

1年間取り組んでみて、子供自身が成長を実感できたことが良かったと思う。

実践報告書 16年度版発行



北海道NIE推進協議会の実践報告書「教育に新聞を」の2016年度版Ⅱ写真Ⅱが出来上がった。道内の小中学校から高校、専門学校、大学の39のNIE実践指定校の実践例をまとめた。

新任アドバイザー4人の抱負

新たに日本新聞協会のNIEアドバイザーに認定された4人のあいさつは次の通り。

▽宗谷管内利尻町立杵形小・高橋正二教頭(51)

年度の宗谷セミナーでは、小中高校の教職員を対象にスクラップ新聞作りの指導や道徳授業での新聞活用などの取り組みにできた。昨

▽日高管内平取町立平取中・盛永美樹教頭(50)

壁新聞作りや社会科の授業などで新聞を使った実践を重ね、日胆セミナーでも発表してきた。今までのいろいろなお力添えをいただいたので、(NIEの)普及・発展に頑張っていく。

▽十勝管内音更町立南中音更小・池田圭子教諭(47)

十勝新聞教育研究会に所属し、新聞記事を用いた道徳授業やがき新聞作りの授業に力を入れている。十勝毎日新聞のコーナーを毎週子供たちと読んでいます。自分でできることをコツコツと積み上げていきたい。

▽函館市立亀田中・川端裕介教諭(36)

歴史、公民授業で、新聞記事を使った学習に積極的に取り組んでいる。函館開港120年の特集記事も授業で使った。子どもたちはもちろん、地域の先生方にも新聞の活用を広めていきたい。

低学年のNIE活動に焦点を当てた釧路市立新陽小新聞を使ったワークシートを国語科の授業で継続して活用している網走市立第二中、新聞投稿の取り組みのほか教員や生徒向けに「NIE通信」を発行した森高など、多彩な実践内容だ。学校図書館や公立図書館と連携してのNIE活動も、15年度に引き続き報告されており、NIE発展の有望な可能性といえる。

A4判、170ページ。1300部製作し、協議会の総会で配布したほか、全道の教育委員会に送付した。各地で開催されるNIE地区セミナーなどで教師向けに無料配布される。

問い合わせは北海道NIE推進協議会事務局(北海道新聞社内、☎011・210・5802)へ。

世界中から集まるニュースをさばく共同通信社本社のニュースセンター



ニュースは眠らない

戦後、共同通信と時事通信に分かれた。これが現在、国内の二大通信社となっている。

通信社記者の仕事も、基本的には新聞やテレビと同じ。社会部や政治部、経済部など、専門ごとにニュースを追っている。

「商品の流れは大きく分けて三つ。まずは国内業務。例えば、共同通信札幌支社の記者が取材した記事や写真は、九州や関西など遠隔地の新聞、放送局が重宝することになる。」

次いで海外ニュースの日本への紹介。共同通信は現在、49の海外支局、通信部を置き、海外通信社約50社と提携している。記事に「パ

共同通信社札幌支社長 田中 太郎

国内外の情報 各紙に配信

「昨日の大風でうちのテレビアンテナ、倒れたんだ。直してくれないかい?」

今から30年以上前の初秋の日曜日。共同通信札幌支社で当直をしていた私が受けた電話だ。なぜ彼が電話してきたのか、今となっては分からないが、「通信」という言葉から通信設備業と想ったのではないかと思う。

事ほどさように「通信社」は知られていない。取材現場でも、うちの記者はまず「共同通信とは何者か」を説明する必要があることもままある。というわけで、今回はメディアを陰で支える



ニュースが飛び交いはじめていた。

ただ新聞社が世界中に記者を配置すると経費が経営を圧迫する。そのため、それを肩代わりする存在として生まれた。いわば合理化の産物で「ニュースの卸問屋」とも呼ばれた。顧客は国内外のメディア。だから一般に知られていないのも当然だ。

米国ならAP、英国のロイター、ロシアはタス、中国は新華社と、各国にはその国を代表する通信社がある。日本にも戦前、同盟通信という巨大組織があり、

「共同」とあれば共同のバリ特派員が書いた記事だし、「AP共同」とあればAP通信の記事を共同通信が仲介したということになる。

残る一つは国内ニュースの世界への発信。かつてはニュースも「輸入超過」だった。近年は日本情報の需要も増えている。特に中国や韓国など、アジア圏での注目は高い。

通信社の使命に「速報」がある。新聞社は朝夕刊の締め切り時間、放送局なら定時のニュース時間に合わせ記事を作るが、通信社に締め切りはない。

大ニュースが飛び込むと、わずかに数行でも分かっていることを記事にして手放す。次いで、新たに分かった事実を加えて徐々に詳しくしていく。せわしない仕事を強いられるのが通信社の記者だ。

深夜になると、今度は活動期を迎えた欧米からのニュースが次々と入るようになる。外信部では「お通夜」と呼ばれる不寝番が世界の動きを徹夜でチェックしている。まさに「ニュースは眠らない」。

昨今はネットメディアもニュース配信先に加わり、通信技術の進歩で情報は瞬時に地球の裏側まで届くようになった。そのような時代だからこそ、逆に通信社の役割は一層、重要になったと思っている。

編集後記

〇…「今年は出席者が多いですね」。5月に開催された当推進協議会の総会会場で、NIEアドバイザーの方から声をかけられました。そうなんです。事前に出席者名簿を作りながら、事務局内でも「ここ数年で最も多いのではないかと話題になっていました。総会後の情報交流会も、例年より1テーブル増やすほどの盛況でした。」

〇…学校行事や仕事の都合などで出席できないケースは毎年あるものですが、今回は非常に少なかったのです。休

憩時の名刺交換も含めて多くの出会いや交流が生まれ、大変うれしかったです。

〇…前年に続いて提供した協議会加盟社などのNIE教材も好評でした。今回は実践報告書のバックナンバーを、最新の16年度版と併せて提供したところ、予想以上の人気でした。特に初回発行の02年度版は希少価値もあってか、すぐなくなりました。これからも、いろいろな場面でNIEの情報提供に努めたいと思います(多)

名古屋で8月に NIE全国大会

第22回NIE全国大会(日本新聞協会主催)が8月3、4日、名古屋国際会議場(名古屋市中熱田区)で開かれる。

大会スローガンは「新聞を開く 世界をひらく」。初日の3日は午後1時30分開会。午後2時からノーベル物理学賞受賞者の天野浩名古屋大教授が記念講演し、引き続き座談会にも参加する。座談会は天野氏のほか女子レスリング五輪金メダリストの吉田沙保里さ

ん、地元の児童生徒代表らが「頭の知識 体の知識」をテーマに意見交流する。

2日目の4日は午前中に「学習指導要領改訂を受けたNIEカリキュラム」外国人児童生徒の日本語教育に活用するNIE」など8つの特別分科会をはじめ、小中高の公開授業と実践発表が行われる。大会終了後には全国NIEアドバイザー日本新聞協会のホームページで見ることができ。参加申し込みは6月末日までで、道内からもNIEアドバイザーや実践教諭らが参加する予定だ。